

コレクション展 2011-III 全体と部分

2011年11月19日(土)～2012年2月26日(日)

「部分」と「全体」の関係性を意識した作品鑑賞から見えるもの…

本展では、当館のコレクションから「全体」と「部分」の関係性を、より意識させる作品を、絵画や写真、映像、立体、インスタレーションといった多様なジャンルを通して紹介し、現代美術について考えることと見ることを問いかけます。

アートの世界において、作品の構成要素を「全体」と「部分」に分けることができるのならば、「部分」は「全体」の中に埋もれているだけの要素でしょうか。「部分」の総和が「全体」とか、「全体」の解体が「部分」というような、単純な加減法での分析や判断では、決してはかることのできない関係といえるでしょう。

「部分」の反復から広がる作品世界～三木富雄《耳》

彫刻家の三木富雄は、生涯人間の「耳」(それも左耳ばかり)をモチーフに制作を続けた作家として知られています。執拗なまでに一つの主題に取り組み続けた作家の業績に目を向けるとともに、アルミニウムで制作された実物よりもはるかに大きなオブジェを前にした時、「耳」はそれ自体が自立した「全体」となり、我々を圧倒する芸術作品となります。



草間彌生《自殺の儀式》1975-76年



三木富雄《耳》1965年頃

「部分」なのか「全体」なのか?～アンディ・ウォーホル

アメリカのポップアートの巨匠、アンディ・ウォーホルは、キャンベルスープの缶詰、マリリン・モンローの肖像など、日常に氾濫するイメージを引用して、鮮やかにシルクスクリーンで鮮やかにくり返し刷り出しました。ここでは部分それぞれが等価であり、均質で相対的に並列されたスープ缶やモンローに対して、見る者の視点は複数に分散され、部分にも全体にも定まりません。これは、大量生産・大量消費される時代の一部として没個性的な生活を受容せざるをえない社会を表現しているといえます。

美術作品において「全体」と「部分」の関係は、お互いに根底で関連している要素といえます。作品全体から受ける印象を、ただ漠然と受け入れるだけでは、作品の真価を見逃したり、鑑賞の楽しさを失ったりすることにもなりかねません。「全体」と「部分」を意識して作品に接することで、これまでに気付かなかった発見や、異なる魅力に出会えるかもしれません。



太田三郎
《ポストウォー 46-47》1994年

開催概要

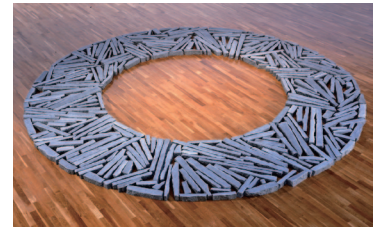
- 【会期】 2011年11月19日(土)～2012年2月26日(日)
- 【開館時間】 午前10時～午後5時
※入場は閉館30分前まで
- 【休館日】 月曜日(ただし祝休日に当たる場合開館し、翌平日休館)
12月27日(火)～1月1日(日)、1月4日(水)
- 【観覧料】 一般360(280)円、大学生270(210)円、高校生170(130)円
※()内は30人以上の団体料金
※小中学生と65歳以上は無料



デイヴィッド・ホックニー
《龍安寺の枯山水を歩く 1983年2月、京都》
1983年

出品作家

阿部展也、アルマン、磯辺行久、アンディ・ウォーホル、太田三郎、デニス・オッペンハイム、アルパナ・カウル、河原温、草間彌生、須田悦弘、デイヴィッド・ナッシュ、野村仁、ナム・ジュン・パイク、デイヴィッド・ホックニー、三木富雄、宮崎進、ヘンリー・ムーア、柳幸典、山村浩二、リチャード・ロング



リチャード・ロング
《スイス花崗岩の環》1985年



野村仁《カメラを手に持ち腕を回す：風景》1973年

関連プログラム (ミュージアム・カレッジ)

コレクション展 2011 - III 「全体と部分」 レクチャー&ギャラリーツアー

本展の内容をふまえ、講座とギャラリーツアーを合わせて行います。

講師/齋藤武郎(コレクション展 2011 - III 「全体と部分」担当学芸員)

日時/2011年11月26日(土)14:00～15:30

※要コレクション展チケット(ギャラリーツアー参加時のみ)、事前申し込み不要



宮崎進
《存在するものの力》2006年

【同時開催】

- 特別展 秋山祐徳太子+しりあがり寿 ブリキの方舟
2011年10月29日(土)～2012年1月9日(月・祝)

【次回開催】

- 特別展 シャルロット・ペリアンと日本
2012年1月21日(土)～3月11日(日)

広島市現代美術館(学芸担当:齋藤 広報担当:後藤、鈴木)

〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園1-1

TEL/082-264-1121(代表)・082-264-1146(学芸直通)

FAX/082-264-1198

E-MAIL/hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp